

# 林木遺伝資源情報

第11号-1 2007.2  
独立行政法人 林木育種センター



林木遺伝資源保存林シリーズ No.13

## ヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林

林木育種センター 遺伝資源部 宮本 尚子

### 1 はじめに

トネリコ属 (*Fraxinus*) は北半球に約70種が分布し、各地域における林業上の重要な樹種を多く含みます。このうち、日本には約10種が分布し、ヤチダモ (*Fraxinus mandshurica*)、シオジ (*F. platypoda*)、アオダモ (*F. lanuginosa* f. *serrata*) は、材の有用な樹種として利用されています。

ヤチダモは、サハリン、中国北部、朝鮮半島と北海道、本州中部以北の溪流沿いや湿地に生育しています。幹は通直で正円に近く、枝下高が高く加工が比較的容易であることから、建築の内装材、家具材、器具材、合板用材などとして利用されています。北海道においてヤチダモは古くから有用樹種として植林されてきており、現在、広葉樹の中で最も造林面積の大きい樹種となっています。林木育種センター北海道育種場では精英樹の選抜や巨樹・巨木のクローンの保存などを行っています。

シオジは、ヤチダモと形態的に非常に良く似ていますが、分布域が異なり、ヤチダモが本州中部以北に分布するのに対し、シオジは関東以西の山地の谷沿いに生育しています。シオジはヤチダモよりやや軽く、ヤチダモと同様に、建築材、家具材、器具材などとして利用されています。林木育種センター本所では、シオジをケヤキと同様に重要な広葉樹の用材生産用樹種として、収集・保存しています。

アオダモは南千島、朝鮮半島と、北海道・本州・四国・九州に分布し、家具材、器具材として利用されていますが、曲げ強さ、堅さ、粘りといった性質があるため、特に硬式野球用バットの最高級材として有名です。北海道育種場ではアオダモの優良品種を開発するために優良材質候補木の選抜とクローンの保存に取り組んでいます。

### 2 林木遺伝資源保存林の現況

ヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林について、設定箇所の位置を図-1に、育種基本区別森林管理局別の設定箇所数と面積を表-1に示

しました。3樹種合わせて14箇所が設定されています。ヤチダモ・アオダモは特に北海道に資源量が多いことから、ヤチダモの保存林は8箇所中5箇所が、アオダモは全3箇所が北海道内に設定されています。

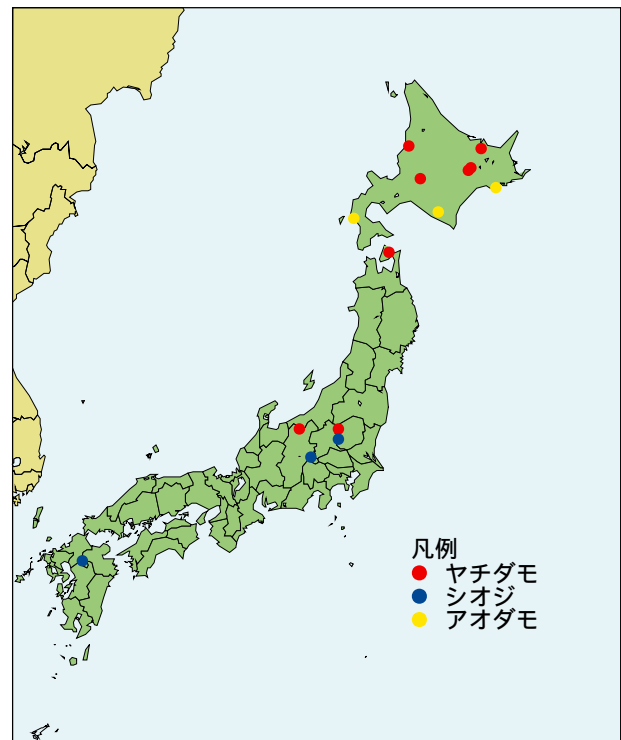


図-1 ヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林位置図

表-1 ヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林の設定箇所数と面積

育種基本区	森林管理局	ヤチダモ		シオジ		アオダモ	
		箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
北海道	北海道森林管理局	5	36.2			3	47.8
東北	東北森林管理局	1	8.8				
関東	関東森林管理局	1	18.1	1	21.3		
	中部森林管理局	1	42.4	1	9.5		
	小計	2	60.5	2	30.8		
九州	九州森林管理局			1	70.5		
合 計		8	105.5	3	101.3	3	47.8
林木遺伝資源保存林全体に占める割合		2.4%	1.1%	0.9%	1.1%	0.9%	0.5%

### 3 代表的なヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林

以下に、代表的なヤチダモ、シオジ、アオダモの林木遺伝資源保存林を紹介します。

#### [北見ハンノキ・ヤチダモ24林木遺伝資源保存林]

ハンノキとヤチダモを保存対象樹種としています。ヤチダモ林木遺伝資源保存林の中で最大級の個体を含む保存林で、胸高直径が1m近いものもあります。ヤチダモの割合は本数で23%、材積で57%です。ヤチダモの稚樹は多数存在するものの、林床が暗いことにより生育途上で消失している個体が多いため、中下層の他の樹種の除伐を行うことによって更新が可能と考えられます。

所在	北海道網走郡大空町 北緯43° 53′ 東経144° 11′	網走南部森林管理署128 は林小班
地況	面積：8.8ha 標高：2m	温量指数 58 降水量 830mm/年
林況	立木 ヤチダモ：平均胸高 直径56cm、平均樹高24m、 70本・112m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 ヤチダモ：3,127本/ha



写真1 北見ハンノキ・ヤチダモ24林木遺伝資源保存林

#### [熊本シオジ・ケヤキ・ブナ5林木遺伝資源保存林]

シオジの他、ケヤキ、ブナを保存対象とし、70.5haという広大な面積を誇る保存林です。シオジは本数割合で9%、材積では29%です。保存林内のシオジは樹幹形が良好で曲がり小さいものが多く、また、1mを超える大径木も生育しています。稚幼樹の生育が非常に旺盛なことから、天然更新が期待されています。

所在	大分県日田市 北緯33° 11′ 東経130° 51′	大分西部森林管理署 105い、ろ、はイ林小班
地況	面積：70.5ha 標高：1,050m	温量指数 68 降水量 2,300mm/年
林況	立木 シオジ：平均胸高直径 44cm、平均樹高19m、73本・ 155m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 シオジ：2,000本/ha



写真2 熊本シオジ・ケヤキ・ブナ5林木遺伝資源保存林

#### [北海道アオダモ28林木遺伝資源保存林]

アオダモは日高地方を主産地とすることから、その群生地を保存し、主要樹種の遺伝資源を保存するために平成3年に設定されました。ミズナラ、ハウチワカエデ、アサダなどが上方の林冠層を形成し、アオダモとアサダがそれに続く上層部を占めています。保存林内のアオダモの割合は本数で14%、材積では6%と小径木が多いですが、アオダモの稚幼樹の発生状況はヘクタールあたり1,240本と旺盛で、天然更新も良好とみられています。

所在	北海道日高郡新ひだか町 北緯42° 20′ 東経142° 43′	日高南部森林管理署 3136り林小班
地況	面積：6.7ha 標高：210m	温量指数 52 降水量 1,182mm/年
林況	立木 アオダモ：平均胸高 直径13cm、平均樹高11m、 110本・12m <sup>3</sup> /ha	稚幼樹 アオダモ：1,240本/ha

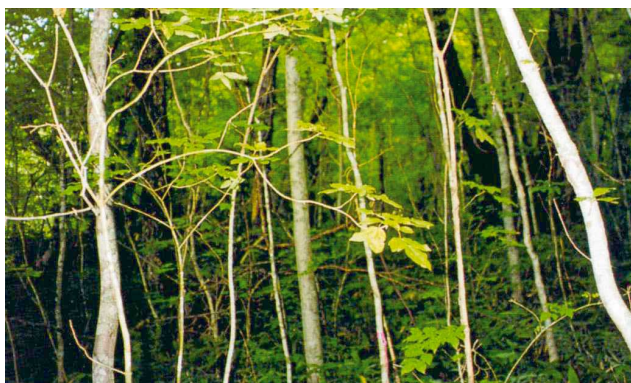


写真3 北海道アオダモ28林木遺伝資源保存林